

## 二国間交流事業 セミナー報告書

令和3年11月17日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]  
国立大学法人佐賀大学・医学部  
[職・氏名]  
教授・出原 賢治  
[課題番号]  
JPJSBP220213603

1. 事業名 相手国: ドイツ (振興会対応機関: DFG) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 第2回ドイツアレルギー・臨床免疫学学会・日本アレルギー学会共同セミナー

(英文) 2<sup>nd</sup> DGAKE-JSA Joint Meeting 20213. 開催期間 2021年10月10日 ～ 年 月 日 (1 日間)

4. 開催地(都市名)

神奈川県鎌倉市

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Department of Dermatology, Venerology and Allergology, Charité-Universitätsmedizin,  
Berlin・Professor・Margitta Worm

6. 委託費総額(返還額を除く) 2,363,000 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

|          | 参加者数 | うち、本委託費で渡航費または<br>日本滞在費を負担した場合* |
|----------|------|---------------------------------|
| 日本側参加者等  | 20 名 | 7 名                             |
| 相手国側参加者等 | 6 名  | 0 名                             |

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

\* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

## 8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

当該セミナーにおいては、基礎、成人喘息、小児アレルギー/アレルギー予防、食物アレルギー/アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の6つのセッションを設けて、アレルギー疾患の主な内容を網羅するとともに、それぞれのセッションに日独から両国を代表する演者を推薦することを計画した。また、当初、2021年10月10日-11日の2日間神奈川県鎌倉市で開催することを計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染の影響により、ドイツからの直接の参加は不可能となり、オンライン形式で2021年10月10日のみの1日間開催を行った。また、日本側の参加者においても一部オンライン参加とした。開催の様子はYouTubeライブ配信とした。開催時間の縮小に伴い、セッションを基礎、成人喘息、小児アレルギー/アレルギー予防、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の5つに縮小し、演者の数は、DGAKI、JSAともに6名(基礎セッションのみ2名)として、その内の半数は若手研究者で構成した。

- (2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

基礎、成人喘息、小児アレルギー/アレルギー予防、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の5つのセッションを設けて、アレルギー疾患の主な内容を網羅するとともに、それぞれのセッションに日独から両国を代表する演者に発表していただいた。それぞれの領域における最新の知見や概念を得られるとともに、それらについて白熱した議論を行なって理解を深めることができた。このように、非常に高い学術的価値を得ることができた。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

前述したように、基礎、成人喘息、小児アレルギー/アレルギー予防、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎と、アレルギー疾患の主な内容を網羅する形で、それぞれの領域における最新の知見や概念を得られるとともに理解を深めて、非常に高い学術的成果を得ることができた。また、両国の診療ガイドラインの比較研究や新型コロナウイルス感染のアレルギー疾患に与えている影響についてもトピックスとして捉え、その結果、これらの課題に対して国際的視点で捉えることができた。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

第1回のセミナーに引き続き、第2回のセミナーにおいても、成人喘息、小児喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎に関する両国の診療・研究成果について活発な、かつ熱のこもった議論を交わした。その中には、両国の診療ガイドラインの比較研究についても含まれており、また、新型コロナウイルス感染がアレルギー疾患に与えている影響についての両国での比較に関する議論も含まれていた。これらの成果は、JSAの学会誌であるAllergology Internationalに今後投稿する予定である。日独のアレルギー診療・研究成果、特にガイドライン、新型コロナウイルス感染の影響の比較に関する報告はこれまで見当たらず、これらを発表することは大変大きな社会的貢献になると予測される。

- (5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

第1回のセミナーでは、JSAからの6名の演者、DGAKIからの10名の演者の内、各々3名の演者は大学院を終了して間もない若手研究者で構成した。第2回の当該セミナーにおいて、当初はJSAからの10名の演者、DGAKIからの6名の演者で構成し、第1回と同様に各々3名の演者は若手研究者とする予定であった。時間の短縮によりJSAからの演者は6名に減員せざるを得なかったが、その内3名の演者は若手研究者とした。また、開催の様子をYouTubeライブ配信として、多くの若手研究者が自由にセミナーを閲覧できるようにした。参加、講演した若手研究者からは、先端的研究内容に触れるだけでなく、世界で活躍しているドイツの研究者と直接交流することができたので、非常に大きな刺激となったとの意見が寄せられた。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

当該セミナーにおいては、基礎、成人喘息、小児アレルギー/アレルギー予防、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の5つのセッションにおいて日独から両国を代表する演者が発表を行なった。それにより、日独の間で共同研究を行う機運が高まっており、実際、それに関する具体的な話し合いが始まっている。また、両国のガイドラインに関する比較研究においては、その成果を今後両国のガイドライン作成に反映させる計画となっている、さらに、新型コロナウイルス感染の影響の比較に関する成果については、今後国際的な新型コロナウイルス感染に関する取り組みに活かすことを提唱している。

(7) その他(上記(2)～(6)以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

前述したように、成人喘息、小児喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の各セッションにおいて発表した内容を、JSAの学会誌であるAllergology Internationalに今後投稿する予定である。また、両国の診療ガイドラインの比較研究や新型コロナウイルス感染がアレルギー疾患に与えている影響についての成果もまとめられ、適宜論文発表する予定である。